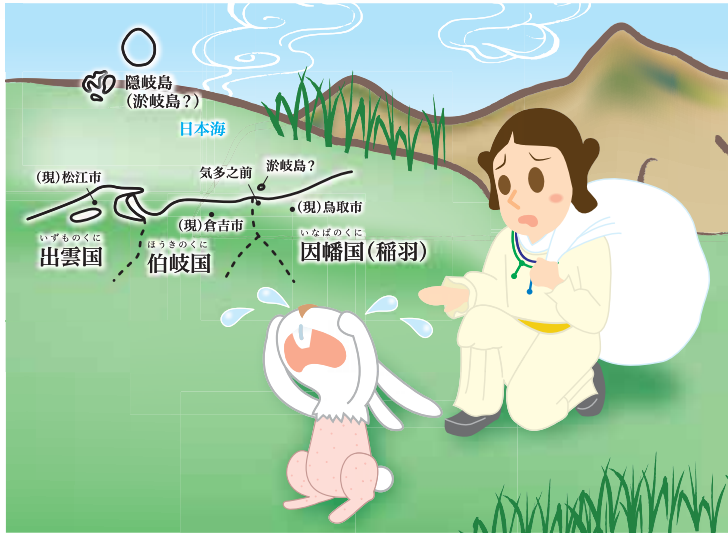


皆さんが暮らす奈良県で編纂された、古事記の世界をのぞいてみませんか？

はじめての古事記

第5話

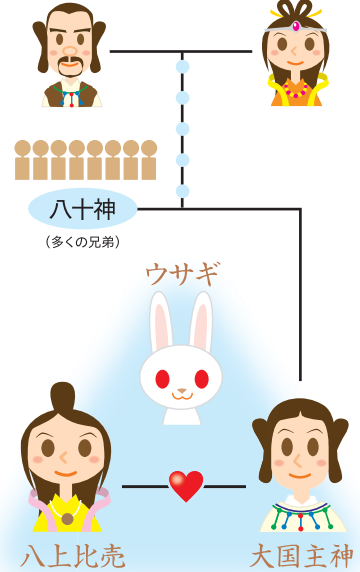


おほくにぬしのかみ いなば しろうさぎ 大国主神と稲羽の素菟

〈今回の登場人物〉

スサノヲミコト

クシナダヒメ



大国主神には多くの兄弟がいました。しかし、大国主神に国を委ねることになりました。そのきっかけとなった話をご紹介します。稲羽に八上比売という女性がいました。兄弟たちは彼女に求婚しに行き、大国主神もそれに同行しました。気多之前に到着した時、裸のウサギが倒れていました。兄弟たちはウサギに、海水を浴びて高い山の上で風に当たるように教えます。それを聞いたウサギはその通りにしますが、ひどくなるばかりです。痛くて泣いてくる。

ろに大国主神が事情を聴きます。

ウサギは「私は淤岐島から気多之前へ行くこうと思いましたが、海を渡る方法がありません。そこでサメに『私とお前の一族のどちらが多いか数えよう。お前が仲間を集めてこの島から気多之前まで並べば、私がその上を踏んで数えよう』と言いました。するとサメたちはだまされて並んだのです。私はその上を跳んで行ったのです。が、もうすぐ到着するところで『お前たちは私にだまされたのだ』と言ったらサメに捕まって白い毛皮をはぎ取られたのです」と答えました。そこで大国主神は「川の真水で体を洗い、蒲の花を敷き詰めて寝転がりなさい」とウサギに教えます。その通りにしてみると元通りに戻りました。するとウサギは「兄弟たちは八上比売と結婚できません。結婚するのはあなたです」と言いました。

その言葉どおり、大国主神は八上比売と結婚し、国を治めていくことになりました。

(本文 万葉文化館 小倉久美子)

編集部の古事記コラム

穴道湖畔にある島根県立美術館には、せんとくんの生みの親、数内佐斗司さんの作品、『穴道湖うさぎ』のブロンズ像があります。

12羽のうさぎがびよんぴょん跳びはね、最後に穴道湖を眺める、この作品は、前から2番目のウサギをなでると幸せになるという噂で大人気だそうです。

鳥取県には今回のお話のモデルとも言われる白兔海岸や白兔神社もあります。ウサギをめぐる山陰の旅も楽しそうですね。



クイズ 古事記ハカセへの道

先月の答え

③ 80人兄弟の末っ子と言われています。

ただし、80というのは、大勢という意味だったと言われているよ。

今月の問題

Q 国を築かせた大国主神でしたが、高天原の神々から国を譲るよう迫られます。彼はとうとうどうしようか？

- ① 自分が築かせた国を譲った
 - ② のらりくらりとはいくらかした
 - ③ 逆に高天原に攻め込んだ
- 答えは来月号を見てね♪